

# ガタゴト・ガタゴト川越線の橋梁

広報室 224-5495

小江戸川越検定の設問からテーマを選び、まちの魅力を紹介します。  
設問 市内で一番長い鉄道の橋梁は？

- ①入間川橋梁
- ②新河岸川橋梁
- ③九十九川橋梁
- ④荒川橋梁

大宮駅から川越駅を経由して高麗川駅(三十一・六km)を結ぶ川越線は、昭和15年に全線が開通し、同44年までは、蒸気機関車が走っていました(写真左)。市内の橋梁で一番長いのは、古谷本郷にある荒川橋梁で、全長約八百m。現在は、架線や、川を抜ける風から列車を守るための防風柵が設置されたり、橋げたが太く補強されたりしています。いずれも列車を安全に、ダイヤどおり運行するためのものです(写真右)。

時は流れても、橋梁にかかるアーチ(トラス)や水位計の位置などは、当時のまま。写真を撮ろうとカメラを構えていると、蒸気機関車の力強い汽笛の音が聞こえた気がしました。



鈴木保之さん撮影

荒川橋梁の近くの川越車両センター(並木)には、川越線・埼京線・八高線の車両があります。10月22日(土)には、「川越車両センターまつり」が開催され、珍しい電車の展示や車両洗浄体験などが予定されています。ガタゴト・ガタゴト出かけてみませんか。 答え④



## 川越の栗

ブナ科に属する栗は、ヨーロッパ、アメリカ、中国など各地に自生し、その実は古くから食用とされてきました。日本でも縄文時代の遺跡である三内丸山遺跡で、当時栽培した跡が発見されるなど、古くから貴重な食料でした。

市内では、霞ヶ関・大東・名

細地区を中心に栽培されています。昭和50年ころは約45haでしたが、近年(平成18年)では26haに減少しています。

食べられる部分は、種子が発達したもので、「鬼皮」という固い果皮と「渋皮」という種皮に覆われています。「丸くて、大きくて、固いのがお勧め。揺らさないで自然に落ちる栗がいいですよ」と岸田廣文さん(62歳・天沼新田)。甘味がある「利平」などの品種を栽培。落ちた栗の中でも、いい栗を選別して農産物直売所に出荷しています。よく3年で実がなるといい

ますが、やはりある程度の年数が必要とも……。

ゆでて食べるだけでなく、栗ごはんや栗きんとん、ケーキなど、さまざまな料理に利用できる栗。この秋、農産物直売所などで販売されている川越の栗を食べてみませんか。



イガの中に1つから3つの実が入っています

編集後記

## どんぐり

年の川越まつりで、川越市所有の山車に乗ってみました(表紙写真)。一昼

半くらいの場所に、五人囃子と舞の計六人が入ります。そこは身動きできないほど。囃子方の入れ替えも大変な作業です。さらに山車が動く、中は立っているのがやつとの揺れが……。山車と山車が出会うと、曳つかわせが始まります。自然と囃子に力が入り、ひよつとこ、おかめなどが、山車から飛び出さんとばかりに舞い、祭りを見に来ている人、提灯を持っている人、それぞれからの熱気が直接伝わってきます。

毎年多くの人でにぎわう川越まつり。山車に乗っている囃子方、運行を管理する鳶の皆さん、そして、山車を所有する町の人たち……。華やかな祭りは、多くの人によって支えられています。

今年は10月15日(土)・16日(日)に行われ、十五台の山車が参加します。